



# 第 198 号

令和 7 年 3 月 31 日

編集 旭川医科大学  
発行 学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)

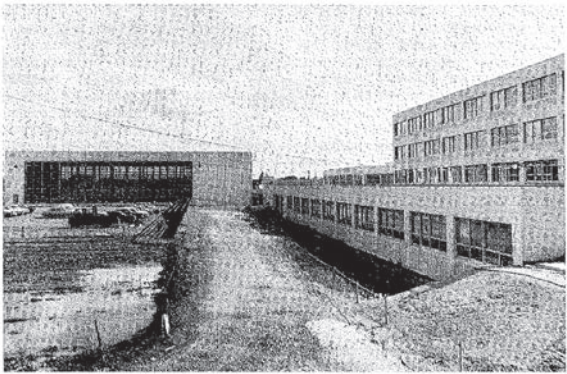


## 第 1 号

昭和 49 年 9 月 1 日

編集 旭川医科大学広報誌  
編集委員会  
発行 旭川医科大学学生会

(題字は山田守英学長)



完成した廣義実習棟および体育館

「第 1 号の風景と今昔」

(写真撮影：学生支援課)

皆さんのこれからの活躍に期待します  
.....学長 西川 祐司 ... 2

令和 6 年度 学位記授与式 ..... 4

感謝 ..... 医学科第 47 期生 梶沼 栞 ... 5

「素晴らしい学生生活をありがとうございました。」  
..... 医学科第 47 期生 出口 貴祥 ... 5

「感謝」 ..... 医学科第 47 期生 大平 果穂 ... 6

卒業にあたって ..... 看護学科第 26 期生 岩本 萌 ... 6

卒業にあたって ..... 看護学科第 26 期生 有坂みなみ ... 7

卒業にあたって ..... 看護学科第 26 期生 廣瀬 彩奈 ... 7

定年退職にあたって  
—旭川医科大学歯科口腔外科在籍 40 年の思い出—  
歯科口腔外科学講座 教授 竹川 政範 ... 8

定年退職にあたって  
生理学講座 神経機能分野 教授 高草木 薫 ... 9

令和 6 年度退職に伴う最終講義が行われました ..... 10

第 12 回医学科白衣式を開催 ..... 11

北見工業大学との医工連携ワークショップを開催 ..... 12

旭川市消防本部による火災予防講話を開催 ..... 12

助産師セミナー開催 ..... 13

保健師セミナー開催 ..... 15

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 熊井 琢美 講師が  
「北海道科学技術奨励賞」を受賞しました ..... 17

国民年金の学生納付特例制度について ..... 18

令和 7 年度日本学生支援機構奨学生の募集について ..... 19

高等教育修学支援新制度について ..... 19

2024 年度前期「企画に対する学生評価」 ..... 20

教員の異動 ..... 20

広報誌「かぐらおか」が新しく生まれ変わります ..... 20

旭川医科大学基金・大学公式ニュースレター ..... 20



## 皆さんの これからのご活躍に期待します

旭川医科大学

学長 西川 祐 司

医学科第47期生114名の皆さん、看護学科第26期生59名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が医学科の皆さんの病理学講義や実習を担当したのはちょうど新型コロナウイルス感染が深刻になり、試行錯誤しながら対策を進めていた時期で、すべての授業をオンラインで実施しなければなりませんでした。そのため、残念なことに、私は皆さんの名前と顔をあまりよく結びつけることができません。看護学科の皆さんは入学後しばらくの間、友人同士の交流がままならない状況が続き、さびしい思いをしたでしょう。しかし、この数年は日常生活もほぼ正常化しましたので、最終的になんとか充実した学生生活を送ることができたのではないのでしょうか。

ご承知の通り、本学は卒業（学位授与）の方針としてディプロマ・ポリシーを定めています。医学科では、（1）倫理観とプロフェッショナリズム、（2）医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力、（3）全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力、（4）問題解決能力、発展的診療能力、研究心、（5）地域社会・国際社会へ貢献するための能力、です。そして看護学科では、（1）倫理観に基づいた看護の社会的使命の遂行、（2）地域社会・国際社会へ貢献するための能力、（3）看護学と医療・保健・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力、（4）問題解決能力、発展的思考能力、研究心、（5）根拠に基づいた基礎的看護実践能力、です。あらためて列記してみますと、立派な医師、看護師になるためにはいずれも本当に大切なことだと思います。本学のカリキュラムを通し6年間もしくは4年間学ぶことで、皆さんはこれらを身に付けたと判定されて今回卒業することができたのです。

しかし、上記の資質と能力を判定することは実際には非常に難しいことですし、皆さんそれぞれ個性があり、到達度も異なっていると思います。卒業したばかりの皆さんにとって、これらはこれからの目標であるというのが本当のところではないのでしょうか？学士の学位を授与された皆さんは、少なくともこれらが自ら医療人として働くために大切なことであることを私たちと共有していると信じています。これからの長い人生をかけてこれらを自ら実践し、実現していかなければならないのです。そのための最も重要なキーワードを挙げるとすれば、生涯学習能力、研究心、そして倫理観とプロフェッ

ヨナリズムになるかも知れません。

ニーチェは人間の精神の3つの発達段階を「ラクダ」、「ライオン」、「小児」に例えています。学生時代の勉学を終えた皆さんは今「ラクダ」の段階で、これから本格的に臨床現場で修行しながらさまざまなことを学び、吸収する間はここにとどまるでしょう。しかし、急速に進歩していく医学、看護学領域の膨大な知見（AIが提供する情報も含め？）を修得した先に、真剣に学べば学ぶほど、皆さんの中にはこれらに疑問を感じる人が出てくると思います。これが研究心の発露により、自由を獲得した「ライオン」の段階で、ここに至って初めてこれまでの医学、看護学の限界を越えて貢献することができるのだと思います。少なからぬ本学の卒業生が、優秀で信頼できる「ラクダ」を経て、いつか「ライオン」に変貌することを願っています。オルテガは『大衆の反逆』の中で、この大胆な踏み出しを「ある新しい科学的真理を発見する人は、それまで学んだほとんどすべてのことを粉砕しなければならない。そうすることによって、数え切れないほどのありふれた考えを截断して血まみれになった両手で、その新しい真理を掴む」（佐々木孝訳）と大変印象的な言葉で綴っています。新しい価値を創造するとされる、次の「小児」の段階については、正直なところ私自身よく理解できていませんが、皆さんにとってもずっと遠い先のことでしょう。

最後に皆さんにお願いがあります。皆さんにはどこで活躍するようになって、仲間として母校に愛着を持って欲しいのです。私は、これまで本学が地域医療や医学研究に実質的に貢献してきたこと、卒業生が旭川、北海道のみならず、国内や海外のさまざまな場所で活躍してきたことを心から誇りに思います。しかし、開学して51年が経過した現在も、本学が日本最北の小規模の国立医科大学であることに変わりはなく、日本が抱える社会構造上の問題の影響を真っ先に受ける立場にあります。この厳しい状況において、同窓生の貢献と母校愛ほど在学生と教職員を勇気付けるものはありません。今年の1月から本学の現況を毎月ニュースレターとして配信していますので、本学とのつながりを保ち、温かく見守ってください。

皆さんのこれからの歩みが実りあるものになるよう祈念して、私からのお祝いの言葉にしたいと思います。

## 令和6年度 学位記授与式

令和6年度旭川医科大学学位記授与式が、令和7年3月25日(火)午前10時30分より、本学体育館にて挙行されました。また、式典の様子はライブ配信でもご覧いただきました。

今年度の学位記授与者は、医学科114名、看護学科59名、さらに大学院では、博士課程3名、修士課程6名が対象となりました。学位記は、西川祐司学長より、卒業生・修了生一人ひとりに手渡されました。

続いて、学業成績優秀者表彰が行われ、在学期間中に優秀な学業成績を取めた学部学生4名に、木彫りの表彰楯が贈られました。

西川祐司学長の式辞では、卒業生に向けた激励のメッセージが送られ、卒業生の謝辞では、卒業後の決意と教員への感謝の言葉が述べられました。

式典終了後には、本学学生食堂にて祝賀会が行われ、卒業生たちは、これまでお世話になった先生方や共に学んだ仲間と歓談し、門出を祝いました。



学位記授与



学業成績優秀者表彰



学長式辞



医学科謝辞



看護学科謝辞



祝賀会

## 感謝

医学科第47期生 梶 沼 栞



今回2度目の大学生活を送らせていただきましたが、振り返ってみるとたくさんの方への感謝の思いが浮かんできます。編入試験では複数の大学を受験しましたが、その度に休みの都合をつけてくれたり、勤務の隙間時間に勉強させていただいたりと、前職の皆様には大変お世話になりました。勉強と仕事の両立がうまくいかず体調を崩し、ご迷惑をおかけすることもありましたが、応援していただき本当に感謝しています。

入学してしばらくはコロナのため登校することはなく、一度も会ったことのない同級生とチャットでグループ授業をする機会があり、非常に戸惑ったことが今は懐かしく思い出されます。兄弟以上に年齢の離れた自分を受け入れてくれるだろうか、気を遣わせていないだろうかといつも不安でした。ですが、同級生の皆は、私が1度目の大学生だった頃よりずっと大人で、普通に接してくれたことが本当にありがたかった

です。おかげで、長期間続く実習生活も楽しく過ごすことができました。

社会人生活を経験してからの大学は、授業も実習も心から楽しむことができました。疑問に思ったことを質問すると、どの先生も大変丁寧に指導して下さり、医学とは関係のない生活上の相談に乗ってくださった先生もいらっしゃいました。実習では、学内だけではなく他の医療機関の皆様や患者さんといった、様々な方のご協力のもとに学ぶことができました。患者さんにおいては、コロナでご自身の面会が制限されている状況の中で学生実習を了承して下さっており、本当に頭の下がる思いです。今後も患者さんから学ばせてもらっているということをお忘れず、この恩を返せるよう励みたいです。

2度目の学生生活は、自分の体力的な不安や経済的不安、家族の病気といった困難にも直面し、周りの方々のおかげで自分の今の生活があるということにより実感するものとなりました。先生方や職員の皆様、友人やバイト先の皆様、いつも応援してくれた家族、支えてくださった方々に心より感謝を申し上げます。

## 「素晴らしい学生生活をありがとうございました。」

医学科第47期生 出口 貴 祥



私は社会人を経て、旭川医科大学へ2020年に編入学しました。当初、「腰を据えて、自分の興味のあることを勉強できるなんてこの上ない贅沢だ!」という思いもあり、加えてコロナ禍という状況と相まって、勉学にのみ邁進しようと意気込んでいました。正直、コロナ禍中のオンライン中心の人間関係では新規に繋がりをつくるのが難しく、そうせざるを得ないとも考えてもいました。

しかし、その予想はいい意味で裏切られました。蓋をあけてみると、コロナ禍による障害はありつつも、素晴らしい出会いに恵まれ、勉学に努めつつ、多くのことを経験することができたのです。病理学講座にて研究して全国学会発表や論文を書いてみたり、友人と小児科ボランティアを立ち上げて旭川医科大学病院小児科病棟で活動したり、遊んでくれる同級生がいたり

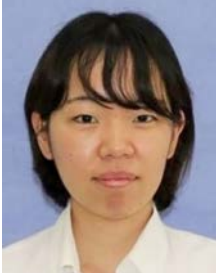
と充実した学生生活を過ごすことができました。

このような充実した学生生活を送ることができたのはひとえに周りの方々のおかげであります。研究室に受け入れてくださった先生方、小児科ボランティアに協力して下さっている小児科病棟スタッフの皆様、年齢差がある中でも仲良くしてくれた同級生、忙しい中でも座学や実習でご指導して下さった先生方、不自由なく学生生活を送れるように支えて下さった事務の方々、ここに挙げきれないくらい多くの方々にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業は医師になるためのスタートラインです。現在、医師に求められるものは幅広く、一人できることは限られているなかで一体いつ一人前になれるのかと不安になります。しかし、自分にできるなかで粛々と仕事に取り組み、この学生生活にお世話になった方々に胸を張って医師と言えるように今後努めていきたいと思えます。

## 「感謝」

医学科第47期生 大平果穂



私の大学生活は、勉強への不安や緊張、一人暮らしの寂しさから大泣きした入学式で幕開けました。そんな私が笑顔で卒業を迎えることができたのは、間違いなく周囲の方々の支えがあったからです。

部活はソフトテニス部に所属しました。中学や高校の部活動よりも大人数で、かつ、年齢の幅も広い集団で活動することは新鮮で、充実した日々を送ることができました。また、部活動の先輩方には、ご飯に連れて行っていただいたり、勉強の相談に乗っていただいたり、部活動外でもたくさんお世話になりました。勉強や普段の生活などで不安になったとき、先輩の存在はとても心強く、私もそのような存在になれるようにと思い活動して参りましたが、後輩の皆さんからも元気をもらうことが多かったように思います。

友人は、同じ医師を志す同志であり、今までの友人とはまた違った仲間意識がありました。試験前には、友人が頑張っている姿を見て自分

も頑張ろうと思えたり、実習で忙しいときにはお互い励まし合ったり、様々な場面で助けてもらったと感じています。また、国家試験に向けて勉強する中では、莫大な試験範囲への不安やプレッシャーなどから、身体的・精神的に苦しくなることもありました。一緒に難しい問題を考えたり、覚えやすいゴロを作って笑ったりしてくれた友人がいたおかげで、乗り越えることができました。みんなで図書館に通い詰めた日々は一生忘れないと思います。

他にも、忙しい中丁寧に教えてくださった先生方や、辛くなったときいつも励ましてくれた家族など、たくさんの方に支えていただいた6年間でした。思うようにいかないことや、悔しい思いをすることもたくさんありましたが、皆様のお陰で後悔のない、充実した大学生活を送ることができたと感じています。

これからは、今まで頂いたご恩に報いることができるよう、精一杯努めて参ります。

改めて、これまで支えてくださった皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 卒業にあたって

看護学科第26期生 岩本 萌



入学からあっという間に4年の月日が経ち卒業の 때가近づいていますが、未だ卒業する自分の姿は想像できていません。そのくらいこの4年間の時の流れは早く、大人になればなるほど時間は短く感じるというのは本当なのだと実感しています。

私は、自身の病気の経験と人と関わるのが好きという理由から看護の道に進んできました。本学では講義や実習、部活動などの経験を通して色々な人と関わることができ、その人が生きてきた過去や背景を知り、様々な価値観に触れることができました。人と深く話すたびに、皆それぞれの十字架を背負って生きているのだと感じることが多く、それでも強く生きる姿から学べるものがたくさんありました。そこでの気付きは、自分自身が頑張ろうと思える糧にもなっていました。

また、講義や実習を通し対象者に寄り添うことの重要性も学んできました。看護において身体へのケアでは具体的に手順が決まっている

一方、心のケアでは「寄り添うこと」と少し抽象的に表わされていることが多いと感じています。実習や講義を通して、「寄り添う」こととは、その人の立場に立って物事を考え、その人がどのような思いや背景でその言動をしているのかを理解しながら支えていくことであり、それは人によって様々な「寄り添う」という形になりえるからこそ、抽象的な表現がなされていることにも気付くことができました。今後も、人と向き合うことを躊躇わず寄り添っていく中で「人と関わることの面白さ」を感じ続けていきたいと思っています。

最後になりますが、コロナ禍でオンライン授業から始まった学生生活でしたが徐々にコロナ以前の形態に戻りつつある中、学生が十分な学びを得られるよう環境を整えてくださった先生方や学生支援課職員の皆様、つらいときに精神的に支えてくれた同期や先輩・後輩、本学に入学して出会えたたくさんの方々に、心より感謝申し上げます。これからも周囲の方々への感謝を忘れず日々精進していく所存です。本当にありがとうございました。

## 卒業にあたって

看護学科第26期生 有坂みなみ



旭川医科大学に入学してから早くも4年の月日が経ち、多くの方に支えられ無事に卒業の日を迎えることができました。振り返ると、様々な出会いがあり、沢山の学びを得ることができ、充実した4年間でした。

入学当初は新しい環境に対して不安もありましたが、毎日が新しい学びと発見の連続でした。初めての病棟実習では、患者さん一人ひとりの思いや価値観に触れることで、どんな時でも患者さんの側に寄り添い、一人ひとりが望む生活を実現できるように支援していきたいという気持ちが強くなりました。また、そのためには基礎的な知識や技術が必要不可欠であることを強く実感し、日々の講義にもより一層力を入れるようになりました。

4年生では、助産師課程に進み、毎日のように講義と実習に追われ、心身ともに疲れ果てることが多くありました。しかし、仲間とともに

支え合うことで、乗り越えることができました。また、実習を通して、命の誕生に携わり母子の命を預かるという立場にあることの責任の重大性を強く実感しました。それと同時に、出産という貴重な体験を母子とその家族にとってより満足感のある体験となるよう支援することのできる助産師という職業の魅力を改めて感じました。このように、実習で得られた様々な学びや思い、経験が向上心へと繋がり、私を成長させてくれたと感じています。

4年間は長いように思えますが、振り返るとあっという間に感じます。在校生の皆さんには、1日1日を大切に、様々な人と出会い、様々な経験を積み重ね、充実した学生生活を過ごして欲しいと思います。

4月からは助産師として勤めます。4年間での学びをもとに今後も学習を怠らず、一人ひとりに寄り添える助産師を目指し精進して参ります。

最後になりますが、これまでお世話になった全ての方々に深く感謝申し上げます。

## 卒業にあたって

看護学科第26期生 廣瀬彩奈



旭川医科大学に入学して早くも4年が経ち、卒業を前にして大学生活を振り返ると非常に充実した4年間であったと感じています。

1年生の時、私たちは新型コロナウイルスの影響を受け、オンライン授業と対面授業の両立に苦労しました。地元を離れ、友人が一人もいない状態で新生活が始まったため、特に友人と会って学生生活を送れないことに対する不安は大きく感じました。2年生になると、規制が緩和され、対面授業やサークル活動で友達や先輩と交流する機会が増えました。友人やサークルの仲間と共に過ごす時間は、私の大学生活を一層楽しいものにしてくれました。3年生・4年生になると、課題やテスト、実習などに追われる日々が続く、辛く感じることもありました。しかし、大学生活の中でも特に看護について深く学ぶことができる充実した時間であったと感じています。実習での看護の実践は、これから看護師として働くうえで非常に大切な経験

となりました。一人ひとりの患者さんと向き合うことで、看護に対する視点を広げることができました。

1年生の頃、先輩方を見て「こんなに立派になれるのかな？」と不安に思っていた私ですが、気づけば4年生になり、本当にあっという間の4年間であったと感じます。在学生の皆さんには、限られたこの貴重な時間を、勉強もサークル活動も友人との時間も、後悔のないよう存分に楽しんでほしいと思います。

春からは看護師として働くことになりますが、これまでの学びを活かし、患者さんに寄り添い、信頼される看護師になれるよう日々成長していきたいと考えています。最後に、ここまで支えてくださった教職員の皆様、友人、家族、そして実習先の皆様方に深く感謝申し上げます。多くの方々の支えがあったからこそ、こうして卒業を迎えられました。これからも感謝の気持ちを忘れず、理想とする看護師像に近づけるよう、精一杯努力していきます。4年間ありがとうございました。



## 定年退職にあたって

—旭川医科大学歯科口腔外科在籍40年の思い出—

歯科口腔外科学講座

教授 竹川 政 範

2025年3月末で定年退職します。40年以上にわたり旭川医科大学と関連病院でお世話になった先生方、スタッフ、職員の皆様に感謝いたします。

私は1984年に日本大学松戸歯学部を卒業し、生まれ育った地元旭川に帰省し、同年4月に旭川医科大学歯科口腔外科（初代教授 北進一先生）に入局させていただきました。北先生に入局の動機を問われた際、「全身疾患患者の歯科診療（有病者歯科医療）を安全に遂行できる歯科医師を目指しております」と申し上げたことを記憶しております。現在も、その信念は堅固であり、自己研鑽およびスタッフの教育に専念してきました。

当時の歯科口腔外科病棟は9階東病棟にあり、第一外科との混合病棟でした。第一外科の先生方には、胸部写真の読影から全身管理まで、専門領域を超えて幅広くご指導いただき、深く感謝しております

教室では創設以来、骨代謝に関する研究を行っています。入局当初は西村先生の研究である処理骨の免疫に関する研究のお手伝いをさせていただき、細胞培養、RI実験、動物実験について基本的な手技を習得させていただきました。松田先生（前教授）からは、解剖学的な研究や電子顕微鏡による骨代謝研究を通して論文作成のご指導をいただき、学位論文を書き上げることができました。2001年から1年8ヶ月間、北先生、松田先生のご指導のもと、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学（UBC）において、「デンタルインプラントに対する歯肉線維再生」の研究に参加することができました。UBCでの研究は、歯科インプラントに関する基礎研究を目的としたものでしたが、同時に国際的なインプラント研究者および臨床医との交流を図る機会ともなりました。これらの経験と広がった人脈は、本院における口腔インプラント再建術の導入において、極めて貴重なものとなっています。

近年、歯科口腔外科診療は、従来の口腔外科診療や有病者歯科診療に加え、周術期における口腔管理（専門的口腔ケア）への関与が求められています。手術前後の周術期およびがん化学療法において、口腔管理は歯科口腔外科の重要な役割となっています。当院では、脳血管疾患での緊急入院患者に対し、入院翌日から口腔ケアに介入しています。また、小児、血液疾患、乳腺、婦人科領域のがん化学療法患者に対しては、口腔管理を行っています。近年では、外来化学療法患者にも対象が広まってきました。耳鼻咽喉科・頭頸部外科患者に対しては、手術前後の口腔ケアに加え、放射線化学療法の早期から介入することで、経口摂取の維持を支援し、治療の完遂率向上に貢献していると考えられます。術前患者口腔スクリーニングでは、医療安全管理部の要請もあり、入退院センターでの動揺歯チェックを開始しました。現在、腎泌尿器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科を中心に行っていますが、PFM（Patient Flow Management）の導入により、対象がさらに広がることを期待しています。医科・歯科・看護連携による病院内での口腔管理は、新たな課題であり、その普及のためにはスタッフの教育が極めて重要です。歯科口腔外科では、歯科医師をがん専門病院へ長期派遣し、さらに口腔ケアを担当する歯科衛生士をはじめとする歯科スタッフの能力向上を図っています。今後、彼らが口腔ケアの専門スタッフとして臨床・研究・教育において活躍し、旭川医科大学の発展に寄与することを期待しています。

歯科口腔外科教授室からは十勝岳の噴煙を望み、眼下からは毎日ドクターヘリが飛び立ちます。教育・研究・臨床において、これほど恵まれた環境で40年間、私を育てていただきました先生方、職員の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。本学関係者の皆様のご健勝と、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げ、定年退職のご挨拶とさせていただきます。





## 定年退職にあたって

生理学講座 神経機能分野

教授 高草木 薫

私は1978年に旭川医科大学の第6期生として入学いたしました。現学長の西川祐司先生と副学長の奥村利勝先生とは同期になります。私は高校時代からエンジニア志望であり、本田技研に入社して、Grand Prix仕様の世界一速いエンジンを作るのが夢でした。しかし、目論見は外れ、旭川医大に入学するという予期外の流れになりました。私は人の命と直面する医師という職業には全く向いていない人間であると自覚しており、加えて、偉くなることにも、人の上に立つということにも、全く興味が在りません。結果として、入学してからこの歳になるまで、予想外の苦悩と苦痛の連続でした。ましては、医学部の教授として定年退職を迎えるなどということは予想しませんでした。

入学当初の旭川医大は光り輝いていました。初代教授の年齢も若く、全学がやる気に満ち溢れていました。国家試験の合格率も全国で1～2位を争い、科学研究費も毎年2億円を超えていました。私が大学院に入った1984年頃も、まだ、旭川医大は輝いていました。しかし、私が渡米する前の1990年頃から旭川医大の雲行きは怪しくなり、帰国後の1995年頃には学内は混沌としていました。理由は大学の覇権争いです。結果、優秀な人材は次々と大学を去り、本学の競争力は失墜し、統率力も低下し始めました。歴代の学長先生はお怒りになるかも知れませんが、これが、本学出身者として最も長く本学に身を置いた私の感想です。その間、何度も状況打開を試みましたが、失望と挫折しか残りませんでした。

大学で重視すべきは「教育」・「研究」・「人材育成」です。これらには、地道な努力の結果としての「業績」と「資金力」が必要です。これらが揃ってこそ、適切な「教育・研究・人材育成」が可能となることを、本学での15年間と東京大学での3年間の教授経験で学びました。例えば、教授が学生や若手研究者を教育・指導する際に、彼らは、その教授の業績と資金力（簡単に言えば「実力」）を意識しています。彼らが、指導者の実力を認めれば、多くの場合、教育や指導に軋轢を生じることはありません。換言すれば、「教授の言葉だから」という理由で、これに素直に従う部下は今や存在しないでしょう。現執行部は、「教育」・「研究」・「人材育成」に重点を置いた大学運営を心掛けるでしょう。そのためには、教授が自ら業績を積み上げ、資金を確保することが必須（必要条件）です。

現執行部（西川学長）が本学を運営するようになってから、学生さんの様子が変わってきました。一生懸命に勉学に勤しむようになったのです。授業にも出席するようになりました。教室を出入りする学生さんも激減しました。実習にも真面目に取り組んでいます。当たり前と思われるこの光景は本当に素晴らしい。10年前には全く考えられない風景です。資金面や病院経営を含めて、本学の舵取りは極めて難しいと思います。しかし、今日の教育現場の改善兆候は本学にとって最も嬉しく有難い事です。定年前に、普通の素晴らしい学生さんに講義や実習で接することができたことを幸せに思っています。

## 令和6年度退職に伴う最終講義が行われました

令和7年3月31日をもって本学を退職される3名による最終講義が実施されました。

看護棟1階の大講義室には、多くの学生や教職員、大学関係者が集まり、3名それぞれに長年にわたる教育・研究活動などを振り返りながら思いを込めて語られました。講義終了後には、講座に所属する学生から花束が贈呈され、大きな拍手が送られました。先生方のこれまでのご尽力に、学生、教職員、卒業生一同心から感謝するとともに、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

### 《解剖学講座(顕微解剖学分野) 渡部 剛 教授》

講義題目：分泌経路を辿って：  
30年間の研究生生活を振り返る

開催日時：

令和7年3月3日(月)

15:30から

旭川医科大学在職期間：

H12.10.1～R7.3.31



### 《歯科口腔外科学講座 竹川 正範 教授》

講義題目：医学部における歯科口腔外科学  
－口腔機能の維持と回復－

開催日時：

令和7年3月4日(火)

15:30から

旭川医科大学在職期間：

H15.1.1～R7.3.31



### 《生理学講座(神経機能分野) 高草木 薫 教授》

講義題目：歩むということ

開催日時：

令和7年3月7日(金)

15:30から

旭川医科大学在職期間：

H3.4.1～R7.3.31



## 第12回 医学科白衣式を開催

令和7年1月10日(金)、看護学科棟の大講義室において、第12回医学科白衣式を執り行いました。この白衣式は、臨床実習を目前に控えた医学科4年生を対象に、「医師としてのプロフェッショナリズムを涵養する」ことを目的に実施されています。学生たちは、これから医療者として社会に貢献する立場になることを改めて認識しました。

式典では、西川学長から学生へ祝福と激励の言葉が贈られ、「医師としてのプロフェッショナリズム」の重要性についてお話がありました。

続いて行われた白衣の授与では、西川学長をはじめ7名の先生方が白衣プレゼンターを務めました。学生一人ひとりに対し、本学のブランドマークと学生の名前が刺繍された白衣が手渡され、着用の補助が行われました。白衣を授与された学生たちは、プレゼンターからの祝福や励ましの言葉に笑顔で応えていました。

式の最後には、代表者4名と学生全員で〔49期生誓いの言葉〕を斉唱しました。誓いの言葉には、学生自身が考えた医療人としての目標が掲げられており、これから目指す医療人像への決意が込められていました。

学生たちは、この白衣式を通じて新たな一歩を踏み出し、未来の医療人としての道を歩み始めます。

### 〔49期生誓いの言葉〕

初心を忘れず、生命の尊厳を守り、使命感を胸に医学の進歩に尽力します。

人間愛と高い倫理観を備え、地域に生きる人々の豊かで健やかな暮らしに貢献できる医師を目指します。

チーム医療の一員としての自覚と責任を持ち、患者さんに誠意を尽くします。

医学研究の発展を目指し、単なる知識ではなく知恵を身につける事に励みます。

凡庸なプライドは捨て、医師として矜持を持ち全身全霊で医療に従事することを誓います。



## 北見工業大学との医工連携ワークショップを開催

令和7年1月27日(月)、北見工業大学の奥村貴史教授(座長)をはじめ、教職員や大学院生が本学を訪れ、看護学科棟1階の大講義室で講演が行われました。また、ロビーではポスターセッションを開催しました。

第3回目を迎えた北見工業大学との医工連携企画は、今回新たに旭川工業高等専門学校が加わりました。

研究成果の発表では、「北見工業大学セッション」では、「地方赤十字病院における医療技術者の就業継続意思向上に関する研究」など3研究、「旭川医科大学セッション」では「カーボンファイバーを用いた心筋細胞力学操作技術」など4研究について講演され、対面だけでなくオンラインでも配信されました。各担当教員が自身の研究成果を発表し、多くの質疑応答が交わされました。

また、ポスターセッションでは、北見工業大学大学院生から14研究、旭川工業高等専門学校教員から3研究の研究成果が紹介され、参加者は興味深く耳を傾けていました。



## 旭川市消防本部による火災予防講話を開催

令和7年1月15日(水)、医学科・看護学科の1年生を対象に、旭川市消防本部の職員を招き、火災予防に関する講話を実施しました。

この講話は、例年実施している消防訓練の一環として行われ、今年度は火災予防、通報の手順、初期消火、避難方法、消防設備について、映像を交えながら詳しく説明いただき、防火に関する知識や意識の向上を図りました。

また、学生たちは119番通報の模擬体験を行い、救急とのやりとりを実際に経験しました。この実践的な学びを通じて、防火意識をより一層高める貴重な機会となりました。



# 令和6年度 助産師セミナー & 助産師交流会 開催報告

日時：令和7年3月7日(金)  
 助産師セミナー10:00~12:15/助産師交流会13:30~16:00  
 場所：旭川医科大学医学部看護学科5階実践看護実習室



## 助産師セミナー

テーマ：骨盤ケア  
 —妊婦に身体づくりに役立つ保健指導のポイントと  
 産後の母親の身体回復に役立つ骨盤ケアの実際—  
 講師：伊藤 彩 先生(訪問型助産院Pono 院長)  
 対象者：本学を卒業した助産師、旭川市内産科施設・助産院および市外助産学実習施設に  
 勤務する助産師  
 参加者：20名(卒業生9名、外部助産師1名、在学生5名(4年生1名、3年生4名)、  
 看護職キャリア支援センター2名、教員3名)

本セミナーは、看護職キャリア支援センターとの共催により、本学卒業の助産師がキャリアアップできるよう支援することを目的に開催しており、今年度からは、地域の助産師の皆さまにもご参加いただけるよう、本学助産師課程出身以外の助産師まで対象を拡大し、市内の総合病院、助産院開業者を中心に募集を行いました。今年度は、1名の現職助産師の参加がありました。

今年度のテーマは、これまでのセミナー開催の経過から、臨床に活用できる技術を中心とした内容がよいのではないかという意見から、骨盤ケアについて伊藤彩先生に、演習を含めたご講話をいただきました。伊藤先生ご自身の実際のケア実践のお話や、産後ケアを通じた妊娠期～産後の身体の変化から、指導を行う上でのポイントなど幅広く講話がなされ、演習では実際に参加者が仰臥位になってのエクササイズを体験し、インナーユニットの大切さについて、身をもって体験する機会となりました。



講話



演習

## 助産師交流会



開催方法：対面式の講話とグループに分かれたフリーディスカッション

対象者：本学助産師課程を卒業した助産師、在学生

参加者：40名(在学生28名(4年生6名、3年生6名、2年生8名、1年生8名)、  
卒業生8名、看護職キャリア支援センター1名、教員3名)

助産師交流会は、助産師を目指す1～4年の在学生と本学卒業助産師が直接交流することで、助産師の魅力の伝達や助産師課程における学びの道しるべとなるよう支援することを目的に開催しました。教員により助産師課程の概要を説明した後は、卒業直前の助産師課程選択学生4年生6名から助産師課程の学びの実際や乗り越え方などを、さらに助産学実習施設の卒業生から、施設の助産の実際をご講話いただきました。その後、在学生・卒業生をミックスした3グループに分かれて、フリーディスカッションを行いました。今年度はあえて教員は同席せず、各グループに進行を任せた結果、それぞれのグループで盛り上がり、在校生は助産師課程選択学生や助産師として活躍する先輩の姿から、助産師になりたいという気持ちを新たにした時間になったようでした。また、先輩助産師にとっても、自らの学生時代を思い出し、厳しい道に進もうとする後輩へエールを送る機会になっていました。

### アンケートより

在学生は、交流会が助産師課程の決定、今後の学習に役立つ方法やポイント、学ぶ意欲、就職情報の入手、助産師になることへの動機づけ、実際に働く助産師と気軽に話せてよかった、との回答がありました。卒業生は、セミナーが有意義な時間であり、保健指導で役に立つ実用的な内容だった、来年度も参加したいとの意見、交流会では助産師の仕事を理解してもらえるようなアドバイスができた、など、午前・午後ともに高評価をいただきました。

開会挨拶  
看護職キャリアセンター  
升田由美子センター長



助産師セミナー参加の皆さんと



助産師交流会参加の皆さんと



交流会での報告・講話中の皆さん



開会挨拶  
看護職キャリアセンター  
地域看護職連携部門  
佐藤こずえ部門長

主催：看護学科 母性看護学・助産学領域

共催：看護職キャリア支援センター 地域看護職支援部門（現・地域看護職連携部門）

## 令和6年度 保健師セミナー 開催報告

日 時：令和7年3月7日(金) 旭川医科大学看護学科D講義室

参加者：看護学科1～4学年35名 1年目保健師7名 計42名

本セミナーは、保健師課程の実際や保健師の活動内容を知り、先輩後輩の交流を通して将来のキャリアを考えることを目的としています。本学公衆衛生看護学領域が主催し、看護学科同窓会・看護職キャリア支援センターとの共催で開催しました。



### ○保健師の花・・・なでしこ

開会挨拶では、公衆衛生看護学領域の藤井教授から保健師の花についてお話がありました。

保健師が国家資格となった1941年、なでしこをモチーフに「保健婦の記章」が作られ、現在、長野県の保健師記念館に展示されています。

なでしこを眺めながら・・・



### 午前の部：保健師への道～看護師と保健師の学習の両立、地域での体験すべてが糧

保健師課程4年生の発表では、1年間の演習・実習は看護師の臨床実習や授業と並行して進むため、多忙な中でスケジュール管理をしながら歩いていくことが報告されました。

保健師活動の特徴として、家庭訪問、健康診査、小集団への健康教育、地域ケア会議など看護の対象が個から集団、地域へと広がります。夏休みは実習前学習で地区視診に行き、就職説明会やインターンであつという間です。夏休み明けの演習では、保健師役・住民役になり毎日ロールプレイで技術を学びます。実習で地域に出向き、住民や関係者の方々と出逢い、地域での体験すべてが糧となっていきます。国家試験勉強は、隙間時間をうまく使い、12月から集中的に取り組んだことなど振り返って報告がありました。

また、行政保健師は大きく2つに分かれ、**市町村保健師**は住民に身近な存在で母子から成人・高齢者まですべての住民の健康支援を行い、**都道府県型の保健所保健師**は広域なエリアを管轄し難病・精神・感染症など専門的な業務を担うことの紹介もありました。**就職活動**では、どんな保健師になりたいか、どんな地域で活動したいかをよく考え、就職先を決めるとよいと後輩へアドバイスもありました。交流会では自由に質問し語り合い、1年間の学習と就職までのプロセスをイメージ化する時間となったようです。4年生から「この先、どの道へ進もうか迷うと思いますが、自分の選択を信じて頑張ってください」とエールが送られました。



4年生報告  
「保健師課程の演習・実習・就職活動の実際」と交流の様子

午後の部：1年目保健師の体験談と交流会 講師 上士幌町&旭川市保健所  
・・・優しくかっこいい先輩達への尊敬・リアル・つながり・・・

自治体保健師には主に市町村と保健所で働く道があり、今回発表いただいた上士幌町は十勝管内の市町村で、旭川市は市町村と保健所の機能を併せ持ち人口20万人以上に設置される中核市保健所でした。比較的人口が小規模の上士幌町では、地区を受け持ち家庭訪問や健診などで住民の方に顔と名前を覚えてもらう嬉しさ、母子保健と学校保健を運動させた性教育等の取り組みが紹介されました。

旭川市保健所は業務分担制で働き続ける中で様々な部門を異動します。感染症担当部署に配置された1年目保健師から、感染症のケアは生活状況や対象者の思いに寄り添い、きめ細やかな支援が求められると実感したというお話がありました。

交流会では7名の1年目保健師が4月から働く4年生の相談対応、在校生に保健師のやりがいと難しさを伝え、先輩後輩が語り合いネットワークを作る時間となりました。最後に1年目保健師交流会で悩みを共有し「明日からまた頑張ろうと思えた」と感想が寄せられ、同期の大切さを実感しました。

○参加者の声～アンケート結果 回収率74.3%「非常に満足」がほぼ全員！有意義な交流会となりました。

保健師課程の試験、学習の流れや就職などの実際を先輩から直接聞いてイメージを持つことができました。

先輩方の素晴らしい発表を聴いて、さらに保健師になりたい意欲が高まりました。大変な中にも楽しさがあり勉強頑張りたいと思います。

市町村保健師と保健所保健師の相違点を初めて知りました。対象者に合わせた関わりの重要性を学びました。

できる限りリアルに不安が強くないよう意識して後輩に保健師課程の経験を伝えました。先輩達の生の声も聞いて嬉しかったです。

保健師と看護師どちらになろうか迷っています。実際先輩もギリギリまで迷ったという話も聞いて少し安心できました。

和気藹々としたグループワークがとても楽しく、保健師課程の雰囲気の良さを改めて知ることができた。

1年目保健師が実際に働くことで得た学びや葛藤を聞き、自分の中で保健師に対する憧れや意思がさらに固まったと感じた。

春からの心構えや活動を先輩保健師から具体的に学べた。同じ管内の保健師同士の交流や公務員研修など就職で不安な部分をグループで聴けてよかった。

1-3年生 4年生



講評：看護職キャリア支援センター 地域看護職連携部門 佐藤部門長

4年生と1年目保健師の皆さん☆懐かしい実習室にて

主催：看護学科 公衆衛生看護学領域  
共催：看護職キャリア支援センター 地域看護職連携部門 旭川医科大学医学部看護学科同窓会

看護師と保健師はフィールドの違いがあり、病院看護師は病院に迎える側、保健師は家庭に向く側で、それぞれの役割がある。自分の持ち場や立ち位置をふまえ、連携を図っていかれたらと思う。1年目保健師の成長に感銘を受け、看護の魅力の幅広さを感じた。



# 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 熊井 琢美 講師が「北海道科学技術奨励賞」を受賞しました

令和6年12月27日に受賞者が発表された「令和6年度北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞」の授賞式が2月18日(火)に執り行われました。

本賞は、北海道の発展に寄与することが期待される科学技術上の優れた発明、研究を行い、今後の活躍が期待される若手研究者に、知事表彰として、贈られるものです。

授賞式には西川祐司学長も出席し、熊井講師の受賞を喜びました。

熊井講師は平成30年4月から本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師に就任しています。



## 北海道 令和6年度 北海道科学技術奨励賞

＜受賞者＞ **熊井 琢美** 旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師

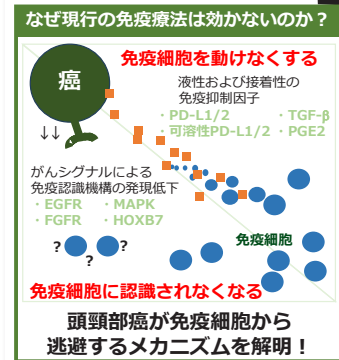
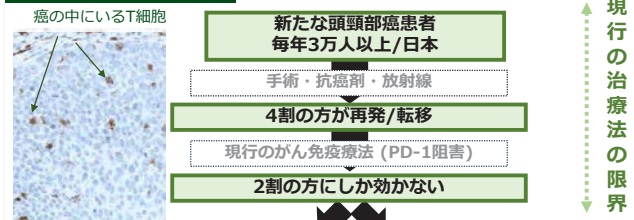
＜功績名＞ **頭頸部癌による免疫逃避メカニズムの解明および革新的癌免疫療法の開発**

頭頸部癌が免疫細胞から逃避するメカニズムを解明し、新たな免疫治療の開発を行っています。

### 背景

- 北海道は咽頭癌や喉頭癌といった頭頸部癌が、全国的にも多い地域です。
- 癌は免疫細胞によって認識されますが、巧妙に免疫細胞から逃避します。
- 現行の頭頸部癌に対する免疫療法は2割前後の患者さんにしかならないため、“頭頸部癌に対する、より有効ながん免疫療法の開発”が求められています。

### 研究内容



## ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。

学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。

申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。



### 学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り(猶予)できる制度です。

- \* 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。
- \* 所得の目安は、 $128万円 + \text{扶養親族等の数} \times 38万円$ で計算した額以下である場合です。

### 学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金(注) 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納付	○	○	○
学生納付特例	○	×	○
未納	×	×	×

(注)障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

### 申請時の注意点

- 申請できる期間
  - \* 過去期間は申請書が受理された月から2年1カ月前(すでに保険料が納付済の月を除く)まで、将来期間は年度末まで申請できます。
- 申請に必要な書類
  - \* 申請書
  - \* 学生証
  - \* 基礎年金番号通知書のコピーまたは年金手帳(氏名記載ページ)のコピー
  - \* 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給者証または雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。

## 令和7年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生でかつ経済的な理由により修学困難な者に学資の貸与及び給付を行っています。本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、申請者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦しています。

令和7年度の奨学生募集は、4月・9月に行います。奨学金を希望する学生は、提出期限内に所定の書類を提出してください。

なお、募集時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

## 高等教育修学支援新制度について

### 「給付奨学金」・「入学料減免」・「授業料減免」について

意欲と能力のある若者が経済的理由により進学及び修学の継続を断念することのないよう、住民税非課税世帯やそれに準ずる世帯の学生を対象として「給付奨学金」・「入学料減免」・「授業料減免」を合わせた支援が受けられる制度です。

学業成績・学修意欲等に係る基準、家計の経済状況に係る基準、その他の基準（大学等への入学時期等）をすべて満たす学生が支援を受けられます。家計の経済状況については、マイナンバーに基づく公的な所得情報で審査が行われます。

- 大学院生と外国人留学生は対象外です。
- 学業成績等に係る基準～成績不振により留置きとなった場合等は対象外となります。
- その他～学士取得後に入学した場合等は対象外となります。

### 多子世帯を対象とする授業料等の無償化について

令和7年度から、子を3人以上同時に扶養している世帯に、所得制限なく、授業料・入学料が無償となる制度が始まります。この制度も高等教育修学支援新制度の一環として実施されますので、支援を受けるためには同制度への申請が必要です。

※入学料の減免は新入生のみ1回限りの支援です。

高等教育修学支援新制度を希望する学生は、『日本学生支援機構 給付奨学金』への申請が必要となります。募集は、4月と9月に行います。

### 参考URL

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/hutankeigen/](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/)  
文部科学省 高等教育修学支援新制度

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kyufu/index.html>  
日本学生支援機構 給付奨学金

## 2024年度前期「企画に対する学生評価」

2024年度前期「企画に対する学生評価」の評価結果及び評価に対するコメントは、大学ホームページへ掲載しております。以下のURLまたはQRコードよりご確認ください。

URL : <https://www.asahikawa-med.ac.jp/campus/life/hyouka/>



## 教員の異動

令和6年12月31日	辞職	病院内科(循環器・腎臓)	講師	竹内利治
令和7年1月1日	昇任	医学部内科学講座(循環器・腎臓内科学分野)	講師	田邊康子
令和7年1月1日	昇任	病院内科(循環器・腎臓)	講師	蓑島暁帆
令和7年1月1日	昇任	病院内科(循環器・腎臓)	講師	松木孝樹

## 広報誌「かぐらおか」が新しく生まれ変わります

広報誌「かぐらおか」は、昭和49年9月に創刊され、50年以上にわたり教育活動や研究成果、校内運営に関する情報を在学生の保証人向けに発信してきました。

このたび、「かぐらおか」をより多くの方々に届けるため、令和7年度からウェブサイトへ移行することとなりました。今後は、旭川医科大学の公式ホームページを通じて、最新の情報をお届けしますので、ぜひご覧ください。

旭川医科大学ホームページURL <https://www.asahikawa-med.ac.jp/>



### 旭川医科大学基金へのご寄附のお願い

詳しくは旭川医科大学 Web サイトをご確認ください。

#### 【ご寄附の内容】

1. 基金全般へのご寄附
2. 修学支援事業へのご寄附
3. 研究等支援事業へのご寄附
4. その他



#### 【基金へのお申込み方法】

1. クレジットカード、コンビニエンスストアでの払込
2. 郵便振替払込
3. 銀行振込
4. 大学窓口への直接払込

### 旭川医科大学公式ニュースレター

#### 2025年1月配信開始

大学の活動をいち早くお知らせする  
大学公式ニュースレターです。  
ぜひメールアドレスの登録をお願いします。



バックナンバーはこちらから↓

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/guide/public/publication/nl/>